

にものらず、すでに世の中から忘れ去られている、このような方々がいたということをここに記して、せめて仏の追善供養にしたいと筆をとりました。

合掌

(仏国寺住職=投稿=)

戦時中の医師不足の対策として各地に設けられた医学専門学校で、山梨県では青沼にあった旧甲府商業学校廃校舎に山梨医学

※山梨医学専門学校

専門学校として昭和一九年四月一日に開校、少しおくれ山梨女子医学専門学校が設置された。入学式は、甲府空襲の前日であった。山梨医学専門学校附属医院には、県病院と外分院二ヶ所があてられていた。甲府空襲のため校舎を焼失、やむなく他の施設を使用して授業をつけたが、関係者の努力の甲斐なく復興もできないまま、文部省の方針で両校とも昭和二三年に廃校となる。

(事務局)

千塚の咳婆地蔵とあげ仏さん

窪田 勘

昭和一七年、市に合併された当時の千塚村について、「山梨県町村合併誌」(昭和四六年刊)には次のようにある。

千塚村

二年町村制施行に当たり、同年六月千代田村は分離して独立、翌七月塩部村と合併、大宮村との組合は從来のままで、千塚村二カ村組合となつた。

本村は旧北山筋に属する千塚・塩部両村の地である。明治五年一月山梨郡第六区に編入せられ、同九年十月山梨県第四区に改編された。明治十三年三月大宮村と連合し、同十八年六月には更に千代田村をも加えて三村連合となつた。明治廿

村は、それぞれ山宮町・羽黒町・湯村町と改称された。
その後、地方自治法第二百六十条第一項にもとづいて、各地で新町名とその区域が定められたが、千塚町についていえば、昭和四年および四五年、その町名と区域とは、千塚一丁目から千塚五丁目と定められ、現在に至っている。
さて、その千塚四丁目に、現在は咳婆地蔵と呼ばれる地蔵が祀られている。千塚四ツ角から北へ約三百メートル、「攀桂寺」入口」とある標識のところを左折して數十メートル、道の右側の古びた小屋に、それは安置されている。

この地蔵については、古く「西山梨郡志」(大正二五年刊)に、

千塚村橋場の四つ辻を一町程南に入ると西側に高さ尺余、周囲八尺位の石が地上に立つてゐる。何時の代からか咳婆さんと呼ばれて、咳殊に百日咳に苦しむ者は、全治した時飴を奉納する事を約して祈願すれば効驗著しいと謂はれてゐる。

尚お茶好き婆さんとも謂ひ、里人はよく茶をあげてゐる。
とあるが、往時をよく知つてゐる窪田はる

(一八九二年明治二十五年千塚に生まれる)さんにお聞きした話でも、咳に苦しむとすぐにお参りに行き、後で、お札に飴などを供えたということである。

その「咳婆さんは、道路の拡張のため移転を余儀なくされ、一帯を「お薬師さん」と呼ばれている現在地に移され、名称も前記のように「咳婆地蔵」と変わり、三体の薬師地蔵とともに祀られることになったのである。

なお、その「咳婆さん」については、

「甲府ミニ散歩」Vol.2（昭和六〇年発行）にも次のようにある。



石 婆 地 蔵

それからといふもの、村人達は、咳の病気にかかると、このお咳婆さんに願掛けようになつた。病気が治ると老婆の好物だったアメを供えた。

この石は、攀桂寺（千塚四丁目）の東にあり、今でもアメが供えられている。これを思うに、右にいう「老婆が村はずれに倒れていた」というところは、話の中でも重要な点である。「村はずれ」とは、逆にいえば「村の入口」のことでもあって、そこに結局「村の守り神として石を立てて祀った」というのは、そこから村内に災厄が入るのを防ぎたいとの深層心理の現われとも見ることができるからである。

昔、一人の老婆が村はずれに倒れていた。村人は氣の毒に思い、その老婆を助けた。元気になつた老婆は、助けてくれたお札にと、咳で苦しむ子供達の病気を治した。その頃、咳は一番怖ろしい病気で死亡する人も多かつたことから不治の病といわれて、人々から恐れられていた。その咳の病気を治した老婆も、歳には勝てず、死んでしまつた。

村人は、村の守り神として、石を立てて祀つた。

それからといふもの、村人達は、咳の病気にかかると、このお咳婆さんに願掛けようになつた。病気が治ると老婆の好物だったアメを供えた。

この石は、攀桂寺（千塚四丁目）の東にあり、今でもアメが供えられている。これを思うに、右にいう「老婆が村はずれに倒れていた」というところは、話の中でも重要な点である。「村はずれ」とは、逆にいえば「村の入口」のことでもあって、そこに結局「村の守り神として石を立てて祀った」というのは、そこから村内に災厄が入るのを防ぎたいとの深層心理の現われとも見ることができるからである。

また、「咳」と「アメ」とつながりは、今でも考えられる自然な筋であろう。

このような意味をもつ「咳婆さん」的民間信仰は、「山梨県総合郷土研究」（昭和一年刊）によれば、甲府市山田町、東山梨郡日下部・玉宮、西山梨郡相川などにも見られる由である。

ついでながら、同じ千塚四丁目、「咳婆地蔵」から西北約百メートルの、民家に囲まれた空地の一隅に、「あげ仏さん」と呼ばれる石が祀られている。前記窪田はるのさんの伝えるところでは、何かの願いごとがあるとき、この石を持ち上げてみて、もし軽々と持ち上げることができれば、その願いは必ずかなえられ、お参りする人も多かつたという。この石も、「咳婆地蔵」と同じく、トタン屋根の古びた小屋に安置されている。

この「あげ仏」的信仰も、東山梨郡塩山・日下部・勝沼・山村・諏訪、西山梨郡相川、東八代郡石和などにも伝えられると、前掲「山梨県総合郷土研究」に紹介されている。

（甲府市経済部長・前市史編さん委員）